横浜市「環境未来都市」提案　OPEN YOKOHAMA

—ひと・もの・ことがつながり、うごき、時代に先駆ける価値を生み出す「みなと」 —

平成23年9月 横浜市

横浜が「環境未来都市」として目指すべき将来像（2050年頃）

■2050年「都市の世紀」をリードする横浜の先進性と突破力
- 豊かな水と緑あふれるゼロエミッション都市
- 市民自身が企業や行政とともにたゆみなく地域社会を変革する「市民力」
- 魅力あるまちに新たなシステムやサービスを織り込む「都市のリノベーション」

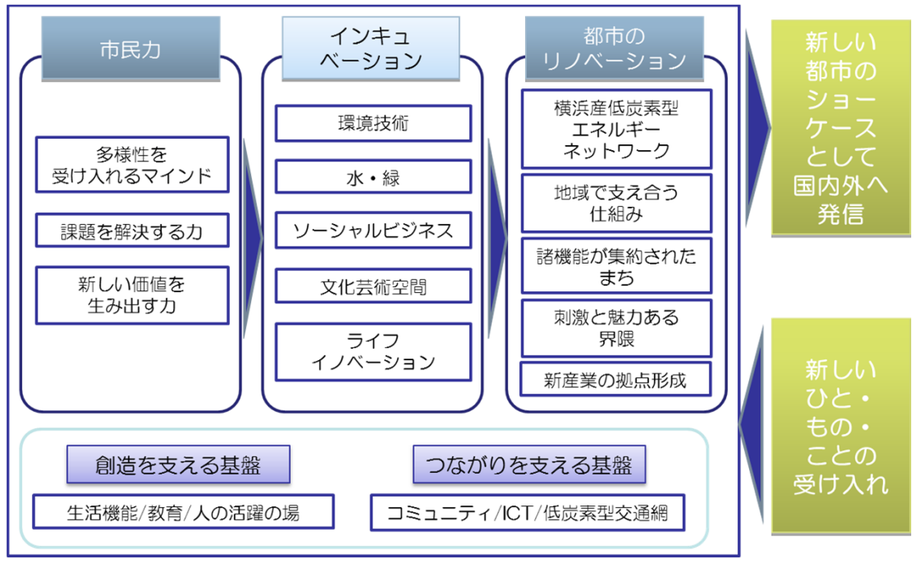
■安心で高品質な生活基盤が支える幸せな市民生活
- 情報技術と融合した横浜産で低炭素型のエネルギーネットワークが実現したまち
- 高齢者や障害者、若者や子どもたちを切れ目なく支える仕組みが組み込まれたまち
- 駅や商業・福祉・医療施設などの都市機能がまとまったコンパクトなまち

■成長産業と文化芸術空間が広げる人・都市の交流
- 環境技術やライフイノベーション、ソーシャルビジネスなどが生み出されるまち
- 港や歴史ある建物の街なみで一流の文化芸術を堪能できるまち

■多彩な地域の魅力の「つながり」がつくる横浜の創造力
- 魅力ある街なみの中での活動や対話が、仲間との出会いをもたらし、知的創造力を触発する街

将来像の全体構成

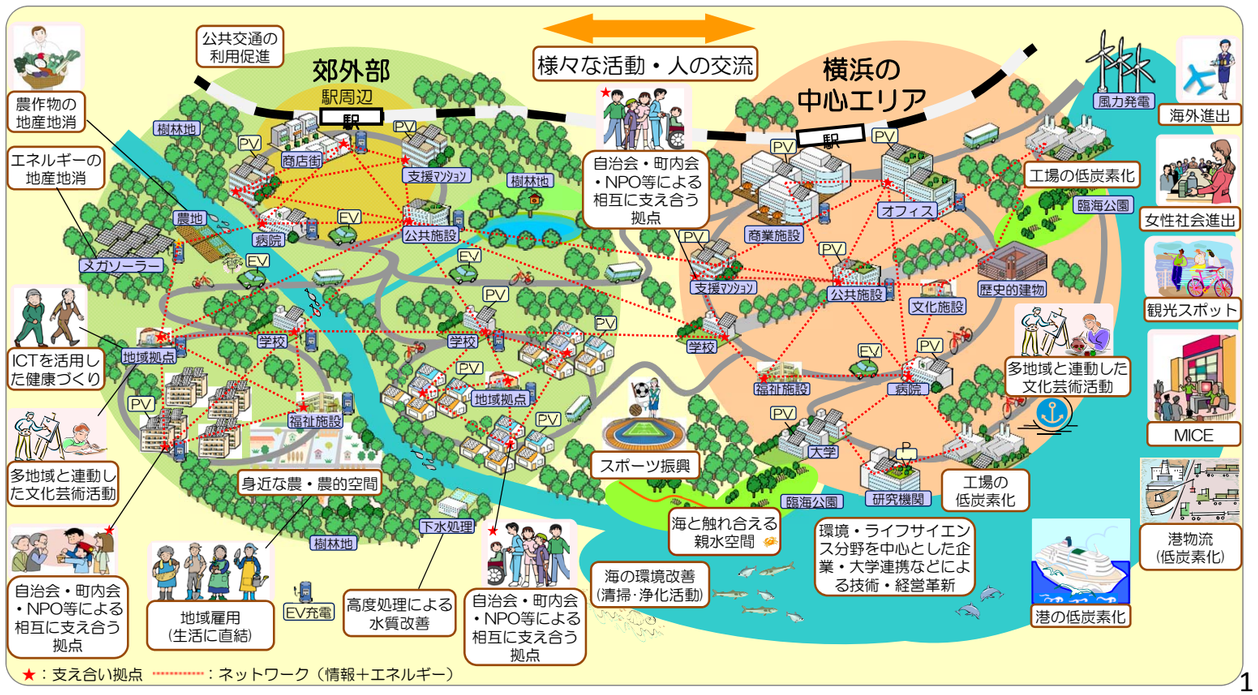
【市民力】が、ひとやものの【インキュベーション】を起こし、
【都市をリノベーション】する



横浜が持つ地域特性

- 先進的な都市経営を可能とする豊富な「市民力」・マーケットパワー
- 港や歴史的建造物による魅力ある景観
- 放射状に広がる谷戸の存在による、身近な空間における水・緑の豊かさ
- 市内11万事業所のものづくり・ビジネス展開
- 戦略的な立地促進により形成された特徴ある産業クラスター
- 高度で多様な専門研究を探求する市内28大学
- アーティスト・クリエイターの集積・活動
- 国際化した羽田空港への至便なアクセス
- 60年で3.5倍に増えた住民、2020年まで継続する人口増、急激な高齢化による100万人高齢者群の出現
- 家庭部門・業務部門からの排出割合が高いCO_2
- 高度成長期に開発された大規模住宅団地の一斉老朽化

横浜が目指す環境未来都市のイメージ



目指すべき将来像の実現に向けた課題・目標と、5年以内に実施する取組内容

低炭素・省エネルギー

【課題・目標】都市の規模を問わず多様な街区タイプに導入可能な「地域エネルギーマネジメントシステム」の構築
CO_2排出が大きく削減しエネルギーが安定供給されている低炭素なまち「スマートシティ」の市域全体での実現

○震災被災地と連携した復興モデル事業(会津若松市、宮城県山元町)を通じ、大規模な市民参加によるスマートグリッドの構築を加速化し、多様な市街地への技術の実装を進める。また、既成街区でのエネルギーセキュリティの強化を図る(みなとみらい21地区)。
○企業のノウハウや営業資源を活かして太陽光発電等を市民に安価で提供する仕組み等により、再生可能エネルギーを拡大する。
○電気自動車(ＥＶ)導入・充電設備導入補助や、非接触充電等の次世代の充電インフラ整備に関する研究・実証を支援する。

水・自然環境

【課題・目標】新興国における水問題の解決への貢献を通じた、横浜での良質な水の供給・水環境保全の基盤強化
景観・にぎわい・水環境にすぐれた「美しい横浜港」の復活

○横浜が持つ上下水道インフラ技術の海外展開プロジェクトを推進する。
○省エネ水道システム、下水排熱の活用など、持続可能な低炭素型上下水道システムの構築、下水処理の高度処理化を進める。
○横浜港の山下公園前・金沢付近などをモデル地区とした浅海部の水質浄化・海岸再生(きれいな海づくり)を行う。
○市民参加により、横浜港・相模湾に注ぐ河川の水源である森の保全・管理を行う。

超高齢化対応

【課題・目標】住み慣れた身近な地域における、子どもから高齢者までの全世代での「つながり」の実感、市民の安心生活の実現
郊外住宅地での暮らしの快適さから横浜中心部の魅力・利便性が一体的に享受できる、コンパクトなまちの実現

○横浜型高齢者活躍プロジェクトの実施や、地域における介護、子育て、障害者支援などを通して、地域のつながりを実現する。
○地域医療連携システムや、認知症高齢者等を地域で支える介護・医療連携ネットワークを構築し、大都市での在宅生活を支える。
○大規模団地や鉄道沿線において、コンパクトな市街地形成など超高齢化に対応したまちづくりのモデルづくりを目指す。
○地域交通サポート事業、駅周辺のバリアフリー化などを通じ、市民に身近な地域におけるきめ細かな交通機能の強化を図る。

クリエイティビティ

【課題・目標】横浜ブランド確立とオンリーワン・ナンバーワンの魅力発信、海や港・文化資源を生かした地域・経済の活性化
クリエイティブな人々が集うチャンスあるまち、MICE拠点都市として国際的地位の確立

○芸術フェスティバルなど、横浜から世界最高水準の文化芸術を発信する。
○アーティストへの空き店舗等貸出しやイベントの開催により、違法飲食店街の再生とにぎわいの創出を推進する。
○横浜港発祥の地である象の鼻地区等、開港の歴史を持つ地域資源を活かした文化芸術活動の発信の場を整備する。
○MICE誘致・開催支援、海外集客プロモーション、観光資源の魅力アップに取り組むことにより、海外誘客を推進する。

チャレンジ

【課題・目標】女性の活躍等による新しい価値創造を通じた市内企業の競争力の強化、高齢者はじめ市民の活力による地域経済の基盤強化、環境やライフサイエンス分野を中心とした成長産業の強化、横浜港のハブポート化

○高付加価値型グローバル企業の誘致を促進し、受け皿となる横浜駅周辺地区、みなとみらい21地区などで都市再生を進める。
○国内貨物等の集中化などによって、国際基幹航路の維持・拡大等を図り、横浜港の国際競争力の強化を図る。
○低炭素化・省エネ、ライフイノベーションなど、成長分野を捉えた中小企業のイノベーションを促進する。
○女性の自立・就労支援、女性起業家の成長支援を行う。

都市間連携・ネットワーク

➢ 横浜市が培ってきた国内外の都市間連携・ネットワークを有効活用し、ベストプラクティスを取り込み、成功事例の普及展開につなげる。

〈横浜市における都市間連携・ネットワークの例〉
- CITYNET（アジア太平洋都市間協力ネットワーク）
- C40（世界大都市気候先導グループ）
- 山梨県・道志村、北海道下川町

構想推進の枠組み

➢ 第一段階は、行政内の執行体制と協議体を構築し、横浜市及び各取組の実施主体によって取組を推進し、取組が自律的に展開していく段階で、新たな組織体（取組全体のコンソーシアム、各プロジェクトコンソーシアム、各エリアコーディネーター）を立ち上げる二段階を想定。

➢ 「各エリアコーディネーター」には、横浜市独自の取組である「区地域協議会」（市民が自ら地域の課題解決を図るための組織）を活用。